

家庭基礎シラバス 高校3年

1. 学習の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(科目) 家庭総合	3 単位	第 3 学年	・新家庭基礎（大修館書店） ・フードデザイン（教育図書） ・被服製作（実教出版） ・ゆかた型紙（株式会社 サン・プランニング）
学習の到達目標	自らを取り巻く環境や、周囲で起こるさまざまな事象に対して、探究心を持ち、観察・学習することで、家庭生活の各分野に関する基礎的・基本的な技術を総合的に習得させ、家庭生活の意義を理解するとともに、地域や家庭生活の向上を図る能力と、それらの能力を家庭や社会で生かし働こうとする主体的・実践的な態度を育てる。		
評価の観点	衣食住や消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むと共に、それらを社会のために適切に活用しようとする実践的な態度を身につけようとしている。＜主体性・多様性・協働性＞		
	人の一生と家族・家庭、消費生活、衣食住などについて生活の充実向上を図るための課題を見だし、その解決を目指して論理的に考え、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。＜思考力・判断力・表現力＞		
	よりよい生活や社会の構築に関する技術と知識を総合的に身につけ、幅広い視野を持って問題意識を持ち、問題解決のために工夫しようとしている。＜知識・技能＞		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

- A：「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・100%
- B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・80%
- C：「努力を要する」状況と判断されるもの・・・60%
- D：未提出，未実施・・・0%

2. 学習計画及び評価方法等

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
4月	平面構成 ・反物について ・用具の使い方 ・女物ひとえ長着の製作 ・採寸（ゆき、着丈他） ・型紙の製作	・被服を手づくりすることの楽しさや意義を考える。 ・平面構成の基礎を知り、より体型に合わせたり、自分らしさを実践する態度を養う。	・反物を切る：事前の準備と本番の勇氣 ・被服製作（実教出版） ・ゆかた型紙（株式会社 サン・プランニング）
5月	反物の裁ち方 ・作業手順（そで、背縫い、肩当、わき縫い、おくみつけ、えりつけ、そでつけ、すその始末） ・仕上げ ・ゆかたの着装及びたたみ方	・被服製作の工程と留意点を理解し、縫製に関する基本的な知識と手法を理解する。 ・ゆかたが着られるようになる。 ・正しくたたんでしまえるようになる。	・浴衣の製作を通して、和装の基本を理解し、着装・保管の仕方を理解する。
9月	7 章 生涯の健康を見通した食生活を作ろう ・食の文化を考える ・国際性と食文化	・食文化に関心をもち、食文化がどのようにして現代に伝わり、私たちの生活にどのような形で根づいているのかを知る。 ・世界のさまざまな食文化について理解し、自分の慣れ親しんだ食文化や日本の食文化を世界に発信していくことを通した国際理解について考える。るものになることを理解する。	・異文化を認め合うことや慣れ親しんだ食文化について理解することについて思考を深め、考えをまとめたり、発表したりする。 ・日本や世界の食文化について調査したり、まとめたり、発表する。
10月	・栄養素の働きと代謝	・食事摂取基準、食品群の種類を理解し、その目的と生活のなかでの利用方法を理解する。	・フードデザイン（教育図書） ・新家庭基礎（大修館書店）
11月	4 章 高齢者の健康と福祉について考えよう ・生活習慣病（高血圧、動脈硬化、糖尿病）予防の食事 ・調理実習（離乳食・幼児向きの献立・介護食）	・これまでに習得した栄養・食品に関する知識をいかして、献立を作成できるようにする。	・家族や自分の食生活について、栄養や健康と関連させて考えようとしている。 ・健康や安全に配慮した食生活について考え、実践することができる。
1月	9 章 安全で快適な住生活をつくろう ・住生活の成り立ちと住文化	・ライフスタイルやライフステージによって住空間に対する家族の要求が異なることを理解し、住まいへの要求に合った住まいのありかたを考える。	・新家庭基礎（大修館書店）
2月	・住空間の計画	・生活行為と住空間とのかかわりや、住空間の違いによって住まいの居住性が異なる	

	・平面表示記号 ・健康で快適な住まいと住まい方 ・安全に配慮した住まいと住まい方	・ることを理解する。 ・住まいの平面図の基礎的知識を学び、要求に合った住まいであるかを平面図から読み取り、住空間づくりができるようになる。 ・地域環境問題の解決には、一人ひとりの理解と行動が不可欠であることを自覚し、環境に配慮した住まいの設備について知り、自分の生活を見直す。 ・住生活と地域社会とのかかわりについて理解し、地域の一住民として、果たす役割について考える。 ・住みよいまちづくりのためには、住民一人ひとりの意識や行動が大切であることを知り、豊かな住環境づくりに積極的にかかわる態度を養う。	・3D マイホームデザイナーで未来の我が家を設計し、発表する。 ・環境に配慮した町作りに関して探求し発表する。
評価の観点及び内容			評価方法（具体例）
衣食住に関する知識と技術を習得し、生活を環境に配慮しつつ能率的、美的に整え、創造する能力と態度がみにについている。＜主体性・多様性・協働性＞			授業課題進捗状況(10%)
よりよい生活や社会の構築に向けて、実践する力を身につけた上で、新しいアイデアを生み出し未来を切り開いていこうとしている。＜思考力・判断力・表現力＞			作成課題の提出(40%)
衣食住などに関する知識と技術を習得し、生活を環境に配慮しつつ経済的、能率的、美的に整え、創造し生活全般の向上を図る技術と能力が身につけている。＜知識・技能＞			定期考査(50%)

【観点別評価】

製作課題提出の場合

- A：習得した技能をより多く効果的に使用し丁寧に表現できている。
- B：到達目標を達成している。
- C：最低限身につける技能での表現にとどまっている。
- D：未提出